

町政を問う



4人の議員が一般質問

一般質問の
動画配信を行っています。

防災対策の見直しを

A 不十分なところは見直し

問 能登半島地震において半島における災害時の対応の難しさ等が大きくクローズアップされた。

避難方法、避難ルートの確保、渋滞対策、町民の輸送計画等について適切か、安定ヨウ素剤数量は確保されているか、配布体制は確認されているか、さらに避難所でのウイルス感染症対策、完全孤立になった場合

の食料備蓄は今のままで良いのか等、現状との整合性も合わせ、特に見直す必要があるのではないかと。また町内建設事業者と連携して住宅の耐震診断、耐震化の進捗、感震ブレーカー設置補助、水確保のための各集落の井戸水等の箇所の確認と緊急時の使用の協定、仮設住宅設置場所の選定と協定締結、津波避難

訓練、周知の方法の再徹底、防災士の育成等町としてできる災害対策を進めるべき。



大谷 功 議員

答 不十分なところは当然見直す必要がある。より一層実効性があるものにする必要があるのは当然。

住宅の耐震化は令和6年度は耐震改修に係る助成額を増額し支援。感震ブレーカーは普及啓発を図りたい。



災害現場

井戸水は災害発生時の飲料水としての直接利用は現実的に難しい。仮設住宅の設置は、当町は平地が少ないことから公共用地のグラウンドなどが想定される。津波対策の基本は「とにかく早く逃げる」こと。防災訓練を通じて避難行動や

避難場所を確認し、今回のようなときの行動につなげたい。防災士の育成は、令和5年度は消防団員に声を掛けしたが、これに加えて地域の防災の主体となる方に声掛けをするなどの啓発を行い防災士の育成に努める。

野良猫対策について

A 京都府へ勧告、命令のステップへ進むよう要請していく



上 辻 亨 議員

問 私の地区では、空き家をすまかに野良猫が繁殖している。敷地内に侵入し糞尿や生ゴミあさり等、猫ダニやノミといった、生活被害による住環境問題となっている。野良猫を捕獲し少なくして欲しいが「動物愛護及び管理に関する法律」により、みだりに捕獲、駆

除することは出来ず、また別の場所に移動することも禁止されている。当町において野良猫による苦情・トラブル等・相談状況について伺う。また当町において野良猫対策の取り組みは無いのか。野良猫が増える原因として飼い主の放置や餌のやり方等が原因では無いか

と考える。猫をペットとして飼っておられる方に飼育指導や飼い猫とわかるよう首輪等を考えるが町長の考えを問う。

もある。解決した場合の理由は「餌を与えていた当事者が転出や死亡などではないか」なり餌を貰えなくなった猫が四散した」というのが主なもので、野良猫に餌を与える行為は違法ではなくこれらの要因が全国的に野良猫問題となっている。当町もこうした問題を把握したら保健所へ連絡し指導頂くようお願いしている。区長さんだけに任せるのではなく地域全体で困っている事を何度も繰り返し伝える。野良猫であっても法律上、みだりに殺し、傷つけ

ることは出来ず犯罪となりかねない行為となる。当事者に理解し改善して貰うのが最善の方法であり、町としても京都府へ勧告、命令のステップへ進むよう要請していきたく思う。



野良猫

今後のICT教育の進め方は

「情報活用能力」を身に着けさせる

問 GIGAスクール構想を受け、小中学校では児童生徒は各自1台のタブレットを使用して英語や算数・数学の授業を受けている。今後さらに教育のICT化、ICT化が進むと考えられるが、児童生徒の健全な身体と心に及ぼす影響はまだまだ不明のものも多く、今

までの実践の中での課題の整理も必要ではないか。今後のデジタル教育についてはデジタル化した副教材の使用や教員への支援体制、自宅に持ち帰ったタブレットの管理や使用ルールの徹底などができていることが求められる。また、学習環境の急速な変化に対しては

児童生徒ばかりでなく保護者も不安や心配を持たれているかもしれない中で、相談を受ける体制なども整備されているのか。どのような理念のもとにICT教育を進めようとしているのか。

証事業」の採択を受け、学校では紙の教科書と併用して「算数・数学、英語」のデジタル教科書の活用を進め、効果を検証している段階にある。今後も紙の教科書とデジタル教科書を併用し、デジタル化した副教材も授業改善に効果的であれば積極的に導入すべきと考えている。教員用のデジタル教科書は無償ではない。デジタル教科書を使うことは新たに負担が冷える側面もあるが、板書の機会を減らしたり、資料の共有ができることもある。令和5年度からは町の職員として

ICT支援員を配置し年間100日程度教職員への支援を行っている。タブレットの運用ルールを定めており、問題発生時は教育委員会が発生時の状況や原因を把握し、学校を通じて児童・保護者への対応をしている。保護者と学校が信頼しあい子どもたちをすこやかに育ていくことが基本と考えている。



山根朝子 議員

亀島地区公衆トイレについて

応募もあり、散策トイレは充足している

問 当町の施策のおかげで、ここ数年日出地区、平田地区にはきれいな公衆トイレを多く設置された。しかし亀島地区には公衆トイレがなく以前の大西海岸のように不衛生な状況になる恐れがある。観光客を誘致する政策をとっている伊根町にとって亀島地区での公衆ト

イレ整備は急務だと思いが、町長の考えを問う。

答 コロナ禍も落ち着き、速報値では37万人を超え、コロナ禍前の35万5千人を超える状況となっている。伊根地区でも過剰な入込で観光案内所周辺では渋滞などが発生しており、伊根町の誘客対策予算は、一人



向井久仁子 議員

「伊根町散策トイレ」の取り組みを行っている。毎年、3件の借上げトイレを募集し、住民の方々からの応募で亀島区内に2カ所、平田区内に1カ所の計3カ所のトイレを借上げている。

この取り組みを始めた経過は、平成23年に策定した伊根浦観光振興ビジョンを推進するうえでトイレの必要性を認識したものの、亀島方面には適当な用地がないこと、財政的な面から新しく公衆トイレを建設するのでなく、住民の皆さんと協力して、「まち歩き」



日出公衆トイレ



タブレットを使用する児童

委員会報告

総務委員会

● 令和6年1月31日

- ・今後の取り組みについて協議した結果、能登半島地震で能登地方は甚大な被害を受けたことから、防災について取り組むことで同意した。
- ・次回総務委員会で本町の防災計画について、総務課より説明を受けることと決定した。

● 令和6年3月6日

- ・伊根町の防災について、総務課より説明を受けた。

産業建設委員会

● 令和6年3月6日

- ・若い漁業者との懇談会について日程調整の協議を行った。

活性化特別委員会

● 令和6年1月31日 / 3月6日

- ・議会報告会の開催方法、形式、テーマ設定などについて協議を行った。



産業建設委員会



議会活性化特別委員会



広報編集委員

■ 委員	■ 委員	■ 副委員長	■ 委員長
向井久仁子	上辻亨	和田義清	大谷功

編集後記



令和六年能登半島地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての方に心からお見舞い申し上げます。
議会総務委員会では今一度伊根町の防災の勉強会を行っていただき、地域住民の皆様が安心して過ごしていただけるよう努力してまいります。
新年度がスタートしました。皆さま、ご自愛ください。



保全会の概要を紹介

保全会

× 立命館大学 オランアースメンバー

本庄地区農地・水・農村環境保全会（以降、略して保全会）は、本庄地区の農地と農村環境を取り巻く環境保全活動をメインとし、地元の子供愛護会・本庄小学校そして平成22年から交流の続く立命館大学（サークル名：オランアース）との域学連携を通じ、地域内外への安心安全な農産物の普及、農業を通じた食育と交流人口の創出、職業選択の一つとなる稼げる農業の確立を目指し、時には地元の各団体と共働しながら活動しています。

- 〈設立〉平成19年4月
- 〈目的〉地区住民による農地・水路及び自然環境の保全
- 〈役員構成〉会長・副会長・理事（各対象地区の委員）・監査委員（対象地区の各区長）の13名
- 〈会員構成〉農家・区民・各団体所屬者（消防団・子供愛護会・立命館大学オランアース等）

〔活動内容〕

- 〈農地の保全と長寿命化〉
- ・ 用水路の修繕
- ・ 電気柵設置及び有害鳥獣防止策の設置等
- 〈河川（筒川）沿いの草刈り〉
- 〈蛭生息地の保全〉
- ・ 子供愛護会と共同し年に一度の蛭生息地域の確認
- ・ 清流域へのアマゴ放流
- ・ 本庄保育所、本庄小学校と共同し長延川に放流
- 〈本庄小学校との共同取組〉
- ・ 学校入口田んぼの田植え、稲刈り
- ・ 収穫した餅米で餅つき体験



秋に収穫した餅米で本庄小学校・保全会・オランアースの皆で餅つき



本庄小学校の生徒達と田植え

- ・ 地元食材の給食メニュー試食会等
- ・ チューリップ植栽
- 〈立命館大学オランアースとの域学連携〉
- ・ 本庄地区産の農産物を詰め込んだオランボックス販売、
- ・ 各農家での農業体験
- ・ 有害鳥獣対策の電柵等の設置体験
- ・ 地域内の伝統文化、祭礼の体験
- ・ 地域内の観光資源発掘と観光体験
- ・ 学園祭及び町内イベントへの共同出店（6次産業化の研究体験）
- ・ 地元小中高生との交流会等
- （※活動内容は単年度毎の事業計画により変更があります。）

当保全会は農業を通じ本庄地区内の少子高齢化・人口減少により浮き出た地域課題への解決策を実践し、持続可能な地域社会の確立と次世代への継承を目指し活動を続けていきます。

当保全会の活動に賛同しサポート体験してみたい方は遠慮なくお声掛け下さい。

本庄地区農村環境保全会
会長 藤原正人